

角つ
折おれ

広丸の難所を凌(し)の(ぎ)曾根(そね)をくだると、大屋まちづくりセンター(旧大屋小学校)の裏に出る。ここを角折(つのおれ)という。

角折の由来について面白い話がある。

木村の起源は太古草味の世、大屋津姫命は大屋、抓津姫命は「津の折(つのおれ)」に鎮座ましましける靈地なりと云い…。

「大屋村勢」邇摩郡大屋村沿革

角折は元来「津の折」

大屋一大森間の古道

④ 続往還を行く

おうかん

三井淳

このことであつたといつのである。

「津(つ)」

とは船の行き着くところであり、大きな泊(とま)りをいう。それが「折れる」とは、

「津の終わり」を意味する。要するに、今の角折辺りからは、かつ

ては海域であつたのだ。五十猛の海岸から既に十すの内陸部ともなり、

現代の地理的観点からはとても想像に及ばない。

「大屋姫命神社の鎮座する荒神山(あらがみやま。宮山、宮の森)は、この大屋津に寄り着いた、さよつたる歴史上の出来事が、荒神山に遺(のこ)る祭祀

の原形なのだろう。しかし、スサノオ族の勢域は、この大屋津を越えることはなかつた。「角折(津の折)」という地名が、それを物語っている。角折は本来大國村の一部で、



角折

揚線が走り、鬼村・久利・大森へと延びている。これは明治に始まる敷設で、決して江戸時代までの古道ではない。(五十猛歴史研究会会員 みつい あつし)

日替わり連載コーナー

◇月曜日は島根県立図書館の「おす
◇木曜日は内藤博之さんの「カウテ